



◎幸せな贈り物

？ 人生を ! 人生に 変える方法

フランス作家のビクトール・ユゴーが、原稿を送った後、反応が気になって出版社に次のような内容の手紙を送りました。

「？」すると出版社から次のような答えが送られてきました。

「！」その結果、誕生した作品が<レ・ミゼラブル>です。

生きていくほど、絶えず与えられる人生の「？」一気に「！」に変える道はあるのでしょうか。

？ 科学、医学、教育、文化、情報…過去と比べれば、比べることができないほど、人間の生活の幸せのための道具があふれ出ているのに、はたして幸せでしょうか。いったいなぜ、日が進むにつれ「生きられない！」という人間のわめきが、なぜさらにあふれ出るのでしょうか。

根が抜けた木、鳥籠に閉じ込められた鳥が幸せでないように、神様とともにいなければならない創造の原理を離れてしまった人間が、はたして幸せなことがありますでしょうか。幸せは条件と環境の問題でなく、根本が解決されなければならない問題です。神様を離れているということは、他のなにかに縛られているということです。

！ 「愚か者は心の中で、『神はいない』と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。主は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行なう者はいない。ひとりもない。」詩篇 14:1~3

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』ヨハネ 14:6

？ 私たちが生きていくこの世には問題も多くて、その問題を解決するという偶像と宗教も多いです。ところで、なぜ私たちの生活の中には理解することもできない、説明することもできない個人の問題、家庭の問題、家系の問題、民族の問題、世界の問題が続いているのでしょうか。言いたくもない最後まで隠したい問題、その運命、そんなことはないと言えるのでしょうか。

！ 「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ 7:24~8:2

「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」
エペソ2:1~5

?

よく食べて寝て生きるためにもがいて、生活の便利さは増えていくのに、なぜますます内面は平安はなくなって、うつ病、そううつ病、パニック障害などの精神疾患と、麻薬、ゲーム、ギャンブルのような中毒は急増するのでしょうか。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」マタイ 11:28~30

!

「何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというわけではありません。私たちの資格は神からのものです。」Ⅱコリント 3:5

?

町のあちこちにあふれるようにあるのが病院です。科学も医学も精神世界も、これほど発展しているのに、なぜ人間は肉体の病気に苦しめられて、その恐怖の中に生きていかなければならないのでしょうか。

「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」イザヤ 53:5

!

「これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。『彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。』」マタイ 8:17

?

ある人が言うのに、今日の若者は、3つのできないを抱える時代を越えて、4つを抱える時代の中に生きているということです。就職もできなくて、結婚もできなくて、出産もすることができなくて、老後の計画もたてられない4つのできない時代、はたして、このまま絶望的な未来を待たなければならないのでしょうか。

「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」ピリピ 1:6

!

「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます。」ピリピ 4:19

?

私の不幸が私たちの次世代に伝えられることを望む人はだれもいないでしょう。それでも繰り返される相続の不幸は、いったいどのようにしなければならぬのでしょうか。

「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」出エジプト 20:6

!

「しあわせなイスラエルよ。だれがあなたのようにであろう。主に救われた民。主はあなたを助ける盾、あなたの勝利の剣。あなたの敵はあなたにへつらい、あなたは彼らの背を踏みつける。」申命記 33:29

生きていくほど絶えず与えられる人生の「？」一気に「！」に変える奥義が「イエス・キリスト」です。
今、あなたがどんな「？」があっても「イエス・キリスト」の御名で接続する瞬間
「！」の奇跡が起こります。

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、
神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、
肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。(ヨハネ 1:12~13)

だれが心の平安を きらうでしょうか

ところで、考えてみてください。幸せ、愛、平安、感謝、喜び、平和、柔和、まことの友人、良い隣人…。人間に本当に重要なことは、お金で買うことはできません。

私たちはまわりに、いやされることができない心の怒りと傷で、不幸と打つ病に苦しんでいる人を簡単に見ることができます。表から見る場合、何の問題もないと思った人も、みなそれぞれ心に傷を抱いて生きていきます。それは、罪悪感、完ぺき主義、うつ病、自分に対する低い自尊心、悲しみ、憎しみ、怒りなどで現れます。ところで、傷の大部分は家庭背景からきたのです。アメリカのハーバード大で青少年の犯罪者の家庭背景を調べた結果、10人中6人の父親がアルコール中毒者で、10人中6人の親がよくけんかをしていて、大多数が欠損家庭であり、親の愛を受けることができず、80%が信仰教育がなかったことが明らかになりました。また、過去に失敗した経験が多い人は、失敗意識が心にぎっしり埋まっています。育った環境が劣悪な人や、特別な失敗経験がある人、そして学習に対する失敗がある人も心の傷が大きいのです。この傷をいやされなければ、葛藤は引続き繰り返し、はなはだしくは傷の奴隷に転落して、深刻な霊的問題に発展するようになります。

しかし、過去の傷をよく理解すれば、大きい祝福の門になります。生後6週で医師の失敗で目が見えなくなったクロスビー女史 Fanny Crosby、1820～1915は、クリスチャンが愛唱する9,000以上の数の美しくて靈感にあふれる賛美の詩を書きました。彼女は詩人として、音楽家として、ギターとハープ、オルガンを演奏し、カンタータとオペレッタの台本も書きました。ある日、牧師がクロスビーを訪ねてきて、主がクロスビーに多くの賜物をくださったのに、なぜ視力はくださらなかったのか気にならないのかと尋ねました。するとクロスビーは「牧師先生、私は神様が私の目を開くようにしてくださることを願っていません。なぜなら、私は私が初めて見る方が、まさに天国でお目にかかるようになる主ならば良いからです」と答えました。また、彼女は一生自分の目を見えなくさせた医師を非難する言葉を一言も言いませんでしたし、むしろ、この世で最も驚くべき尊いことをするようにしてくれたと感謝していました。クロスビーは、自分が視力を失ったことは、創造主がくださった祝福で、摂理だと思っていました。彼女は自分が持っている傷を祝福の門にしたのです。

私が持っている心の傷が祝福になるのか、呪いになるのかは、私の選択にかかっています。神様の願いは次のとおりです。「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」エレミヤ 29:11 それで、人間のすべての問題を解決するイエス・キリストを送って、このように約束してくださいました。「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」ヨハネ 14:27



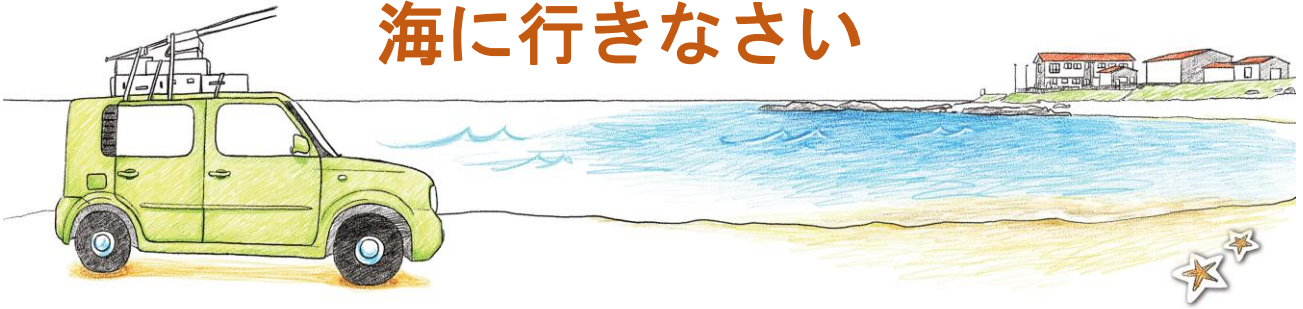
神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリスト下として受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださいました。今、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

海に行きなさい



讃美歌に〈しづけき河のきしべを〉という賛美がある。

①静けき河の岸辺を過ぎゆくときにも。憂き悩みの荒海を渡りゆくおりにも。心やすし。神によりてやすし。

②群がるあだはたけりて、かこめど、攻むれど。いざなうものひしめきて、望みを砕くとも。心やすし。神によりてやすし。

③うれしや十字架の上に、わが罪を死にき。救いの道、歩む身は、ますらおのごとくに。心やすし。神によりてやすし。

④大空はまき去られて、地はくずるとき。罪の子らは騒ぐとも、神による御民は。心やすし。神によりてやすし。アーメン

この歌詞をちょっと見れば、世の中で安らかな人が自由を歌ったように見られるが、事實はセウォル号の惨事をあらかじめ経験した人の信仰告白だ。彼はスパフォード Horatio Gates Spafford 牧師で、1男4女の中で唯一の息子を4歳のとき肺炎で失い、1871年にはシカゴ大火災で彼のすべてのビルディングと財産が消失する途方もない経済的損失をこうむった。しかし、それが試練の終わりではなかった。1873年11月22日明け方2時。引き続いた衝撃で健康が弱まってフランスに発った彼の婦人と4人の娘が旅客船沈没事件で夫人だけ救助されて、残り4人の娘は命を失うようになる事件が起こったのだ。ひとり救助された夫人に会いに、イギリスに向かったスパフォードは船の船長から「今、私たちはあなたの子どもたちが乗っていた船が沈没した、その上を通過するところです」ということばを聞くようになった。スパフォードは自分の船室に戻って夜通し神様に祈り、苦しみの

中で泣き叫んでいたある瞬間、突然、内側で揺れ動いていた暴風が、一瞬にして穏やかになるのを感じるようになった。まさにそのとき、世の中で感じることもできない深い平安が、彼を覆っていたのだ。それは以前には経験できなかったキリストによる深い「たましいの平安」であった。そして、その夜に4人の娘を失ったスパフォードの唇から、かえって肉体は苦しくても「心。やすし」It is well with my soul という告白が出てくるようになって、これが私たちがよく知っている〈しづけき河のきしべを〉という賛美になったのだ。セウォル号事件で楽しみの海が、悲痛の海として席を占めている私たちに、スパフォードが発見した平安のキリストは、日本の圧迫と朝鮮戦争の惨禍の中で多くの信徒に慰めになった賛美だった。

いくら見回しても、道が見えないとき、キリストは神様に会う道になられて、私が犯した罪ではなくても理由のない罪を感じる時、キリストは赦してくださって、避けることができないサタンの攻撃から、キリストは避ける岩になられる。もとに戻ろうとしても変わらない現実、私たちに恨みになって苦しみを積みあげていくだけだ。

私たちに苦痛を与えるのは、結局、人間であって海ではない。それなら今、もっと海に出て行かなければならない。そこで私たちの歌を見つけて、救いの感謝を感激で表現しなければならない。

船は港にある時が最も安全だ。しかし、船は港につなげておくために作られたのではないという話のように、危機を機会として、死の中でも平安の慰めをのがさなかったら良いのだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ